平成29年度小豆島オリーブ検定（ビギナー検定）東京会場　正解表

設問	正解	テキスト記載P	備　　考	設問	正解	テキスト記載P	備　　考	設問	正解	テキスト記載P	備　　考
問1	3	P54	オリーブ栽培の起源には諸説あるが、約6,000年前に小アジア地方で始まったというのが現在の定説になっている	問18	4	P30	モクセイ科オリーブ属に属する常緑樹である	問35	4	P56～59	①ギリシャ ②ギリシャ ③イタリア
問2	3			問19	1	P31	密生した毛茸で銀白色になっている	問36	1	P66	レッチーノはオイル用品種である
問3	3	P8	日本に初めてオリーブオイルが持ち込まれたのは、約400年前の安土桃山時代である。当時、キリスト教伝道のため来日したフランシスコ派ポルトガル人神父が携えてきたと言われている	問20	4		5月下旬～6月上旬にかけて開花する 開花期間は約一週間と短い。蜜はなく、多量の花粉を風で飛ばす風媒花である	問37	2	P56～61	小さい順にアルベキナ＜マンザニロ＜アスコラーナ・テレナ＜セビラノ
問4	1	P9	日本へのオリーブの伝来は文久2年及び慶応3年に、幕府医学所薬物園と横須賀に植えたのが最初とされている	問21	4			問38	1	P38,39	明治41年の栽培開始時からわずか2年後にはその存在が確認されている
問5	1	P10	明治6年のオーストリアで開催された万国博覧会の後、明治7年、博覧会の副総裁、佐野常民がイタリアからオリーブ数十株を持ち帰り、東京と和歌山に植樹したもののうち、和歌山県に植えられた苗木は順調に育ち、実を結んだ	問22	1	P31,32	収穫量を上げるために受粉樹として異なる品種をある程度混植しているケースが多い	問39	2		スミチオン乳剤を幹や太い枝に4月～8月にかけて、葉・果実にかからないように年3回までに抑え散布する ペンコゼブ水和剤は炭疽病予防に使用する
問6	2	P12	明治40年に農商務省が、三重・鹿児島・香川の3県を指定し、翌41年それぞれ1.2haの規模で試験栽培開始	問23	3	P35	比較的低温には強く、短時間の場合マイナス10度で寒害が発生する程度である	問40	1	P42～49	1970年代中頃まで主な採油法であった
問7	1	P21	1908年4月22日に519本を小豆島の西村に植栽した	問24	4	P34	日照量が多いほど生育がよく、年間2,000時間以上の日照時間が望ましい	問41	2		ペーストの接する部分がステンレス・スチールであるため、他の金属イオンの影響を受けない
問8	2	P12	三重と鹿児島で栽培したものは開花したが結実は極めて不良に終わった	問25	3		オリーブは乾燥を好む植物とされているが、適度な灌水が必要	問42	2	P74,75	②骨のミネラル化（骨組織へのカルシウム吸収・沈着）を促進 カルシウム喪失を抑制するので骨粗しょう症の予防にもなる
問9	3	P12	この戦争によって、北方海域に広大な漁場を獲得し、膨大な量の魚介類の水揚げが可能となった。その魚介類保存、輸送の手段として油漬けの手段がとられ、これに使用するためのオリーブオイルの自給が求められた	問26	2	P36	土壌に対する適応性は大きいが、根の生育には良好な通気性を必要とする	問43	3	P71	国際オリーブ理事会(インターナショナル・オリーブ・カウンシル)の基準における分類中、品質の高い順に、エクストラ・バージン・オリーブオイル、バージン・オリーブオイル、オーディナリー・バージン・オリーブオイル、ランパンテ・バージン・オリーブオイルとなる
問10	1			問27	3	P40.41	小豆島のテーブルオリーブス（新漬け）用果実の収穫は全て手摘みで行っている	問44	4	P73	バージン・オリーブオイルはビタミンEやベータカロチン、ポリフェノール類などの抗酸化物質を豊富に含んでいる
問11	2	P15	大正11（1922）年から農事試験場に在籍	問28	1	P30～32,35	②オリーブの花は、1つの雌ずい（めしべ）、2つの雄ずい（おしべ）を持っている ③オリーブ樹は生長が早く、高さが10メートルを超える場合もある ④オリーブ樹は常緑樹である	問45	2		オリーブオイルの成分中約55～83%を占める
問12	3	P60～62	日本へは明治40年、農商務省指定試験開始時にアメリカ合衆国から導入された	問29	2	P60～62	世界中で多く栽培される果実加工用品種。自家不和合性が強いなど弱点があるが栽培は容易	問46	2	P71	ポマスとは採油カスのことである
問13	3	P16	初代分場長は尾崎元扶	問30	3		観賞用樹として最も苗木生産量が多いのが特徴	問47	1		エクストラ・バージン・オリーブオイルとは、素晴らしい風味や酸度の低さともに、トップクラスのオリーブオイルである
問14	1	P14,15	これにより、日本における果実加工の一歩が踏み出された	問31	4		含油率は25%程度と非常に高い。一本でも実をつけやすく、耐寒性、耐病性にも優れている	問48	1	P22	②香川県の県木に選ばれる ③小豆島の島花・島木に選ばれる ④小豆島内海町オリーブ振興特区に認定される
問15	1	P16,17	オリーブ樹の自家不和合性の解明や苗木の育成法の確立など、オリーブ栽培進展の障害となる多くの問題点を解決し、日本におけるオリーブ栽培の基盤を構築した	問32	1		国内オリーブ栽培の果実加工用、油用兼用の最主要品種となっている	問49	1	P22	1972年「オリーブを守る会」が結成され、3月15日を「オリーブの日」と定めた
問16	3	P18,22	オリーブが農産物輸入自由化の第1弾の品目に組み込まれた	問33	3	P40	テーブルオリーブ用果実には緑果用と熟果用があるが、香川県においては、緑果用が主体となっている。マンザニロで9月下旬～10月下旬、ミッションで10月上旬～11月中旬が収穫時期となる	問50	3	P82～85	西村地区の森口屋旅館に逗留し、オリーブを描いた
問17	1	P27	昭和39年当時小豆郡内では、106haで栽培されていたオリーブであったが、昭和60年には34haまで減少	問34	2	P60	2008年の時点において、香川県農業試験場小豆分場の保存品種・系統数は約60品種・系統であった				